

軍極秘

東部ニ一ギテ方面作戰ニ参加中ノ戰訓並ニ所見

旧第七根據地隊司令部附

海軍大尉

伊藤

寛(四三三)

海軍

(海軍)

本稿ハ、元第七根據地隊司令部附伊藤寛大尉ノ体験見聞セル
 記憶、口述ヲ其ノ終ニ記録セルモノニテ文體整ハル所アリ又事實ニ於
 テモ多少訂正ヲ要スルト認メラル所アルモ参考記事トシテハ却テ其
 終ニ記述シ置クヲ必要ト思考シ記憶ト日誌トヲ照合セル口述トシテ
 記述セリ。

自昭和十八年十月二十五日

第七根據地隊司令官

至昭和十九年三月二十五日

海軍少將

工藤 久八

海軍

(5)

ニユーギニア方面作戰ニ参加中ノ戰訓並ニ所見

旧第七根據地隊司令部附

海軍大尉 伊藤 寛 (ヨキ六三二〇)

伊藤大尉ニユーギニア於ケル行動概略左ノ如シ

昭和十八年十二月二十八日 ウヰワワーク到着

昭和十九年一月三日 マダン到着

一月九日 第七根據地隊司令官及司令工藤少將部

員第十八軍司令官安達陸軍中將及幕僚

ト共ニシテヨリ、イ第七九號潜水艦ニ依リマダン

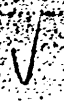
着

三月初 旬 前進部隊收容準備為ホガニン方面ニ前進

約一週間ニテマダン歸投

三月十八日 マン海軍警備隊(八二警)ヲ主体トシ海軍高

并 記



海軍

砂義勇隊一ヶ中隊ヲ會ムニ部兵カ(約一〇名)ノ指揮官ヲ命セラレ先發部隊トシテオランダニ向ケマダン發

四月三日 オランダ(ホギア地區)到着

四月十九日 海軍部隊第一二梯団長トリ部下約二五〇名(義勇隊約一〇名八十五警備隊約一五〇)ヲ率ヒホイキン(ウヰワークノ西約三十六軒)ニ

陸路転進開始

五月三日 ホイキン到着

五月二十七日 ホイキンニ入港ノ呂第二五號潜水艦ニ便乘

六月十日 横鎮着任

右記期間東部ニユキヲニ於テ見聞セル事項ニ就キ左ニ詳述ス

(原力川)

昭和十八年十二月二十八日ウキワークニ到着セルヲ以テ直ニ九艦隊司令部ニ根司令部ト無線連絡ヲ取リタルニ直ニ「マダン」經由陸路ニ着任スベシト命ヲ受ク、

當時ウキワーク地区、状況ハ敵飛行機ニ未襲大体午前中ニ限ラレ海上ニ敵真雷艇ノ活動モ殆ンド無カリシ爲海軍部隊ハ海龍島ヨリオランパ迄大發ヲ物資輸送ヲ敢行シテ又所在陸軍部隊モハンサ、マダン地区マテ漁船大發、函便ヲ物資輸送ヲナシテアリタリ、ウキワークニハ九艦隊司令部及第三特別根據地隊モ所在シ附近ノ海龍島ハ海軍軍需部ノ支部及水偵基地等アリ、水偵六機對戰警戒ニ任ジテアリ、該地所在陸軍部隊モ以前ヨリ相當量兵器糧秣器材等ヲウキワーク海岸地区、椰子林中ニ揚陸ナルアリタルモ敵飛行機連日ノ大爆撃ヲ蒙リ予想以上ノ被害ヲ蒙リオリタリ、コノ被害ノ甚大ナリシハ所在陸軍各部隊間、協力少ク分散格納ヲ行ハザリシ事ニ起因スルモノナルベシ。

海軍

コレニ関シテハニ特根先任参謀ハ海軍部隊ヲシテ協力セシメ被害ヲ少ナラシメント思考セシモ陸軍部隊ニ誤解サル、惧アリシ故遠慮セリト申シオリタリ。海上ニ於テハ敵飛行機ニ依リ入港船舶相當損害ヲ被リ多数沈没ナリナリタルモ拘ラズ、陸海軍共大發漢船等被飛行機ヨリ避匿スルコトナク、棧橋等其附近ニ繫留シアリタリ。

十二月二十九日單獨ニシオリマテ行軍準備ヲナシ海軍大發ニテオランバ迄前進セリ(内地大發、際ニユキニアニ関シ種々ノ件ニ就キ研究ハナシタレドモ何等資料モ殆ント入手困難ニシテ艦艇乗艦ノ場合、如キ準備ニテ出發モ故陸路ニシテ行軍スル準備ハ相當苦勞セリ)

當時、オランバニニ特根附干野少尉、指揮スルニ千名程度、兵力駐屯シオリ前線部隊ノ物資員補給ノ集積所トナリオリタリ。

又當地、三井農園ヲモ海軍ニテ監理シ農産物ノ一部ハハサ地区陸軍部隊(4D)ニモ分配シオリタリ。

ハンサハオランバヨリ約三六軒西方、地點ニテリ41Dノ兵站司令部第三
 船舶輸送司令部及野戰貨物廠等モ所在シ且ツ41Dノ部分ノ兵力
 警備ニ配置サレオリ、兵器糧秣器材等モ相當量集積シテリ、
 ハンサ飛行場ハニヶ所ニアリタルモ敵機ノ爆撃ヲ蒙リ使用困難ナル狀況
 ニアリタルバ陸軍ハ晝夜兼行ニテコレガ復旧ニ努メツアリタリ、
 ハンサヨリ陸軍演習船便ニテマダン迄進出中、ウリンゲン附近海上ニ於テ夜間
 ニ○○頃敵(ノースアメリカン)機ノ襲撃ヲ受ケ乗船沈没セル故以後ハ徒歩
 ニテマダンニ到着セリ時三月三日ナリ、
 マダンニ到着セル折敵ハフカイヤニ上陸(約一ヶ師)セリト聞キ直ニ七根
 司令部ニ陸軍無線ニテ連絡セル司令部近日中ニマダンニ移駐スル故ソ
 レマデ待機ナシ司令部幕舎設營ノ命ヲ受ク、
 小官ノマダンニ到着ト日ヲ今ツウシテシオ方面ヨリノ先發部隊(百佐五
 特部隊中隊長月橋哲、藤永壽、西中尉(七十期生)以下四〇名ナリ)

カフンガイヤ上陸ノ敵ト僅少ノ差ニテ該地區ヲ通過シマダンニ到着セリ、
 當時マダン地區狀況ハ第十八軍軍司令部ノ一部及410ノ一部兵力510
 ノ一部兵力該地區警備ニ配置セラレタリ、附近ノアレキス飛行場ハ
 ニケ所ナリ孰レモ連日ノ大爆撃ヲ受ケ一部使用出来ルノミテ殆ド破壊
 サレシモ復旧工事ニ努メタリ時折陸軍偵察機ガ、ニ機夜間連絡ニ飛来
 スルノミテ晝間ハ一機ノ味方機モ飛来セ、敵飛行機、一日延機数三。
 ヲ数フル狀況ナリ、ユレニ對シ味方ハ高射砲十四門程度其他機關砲程
 度ノ對空火器ハアリタレドモ一月八日敵大型機約七。機戰鬥機二。敵機
 以上ノ来襲ヲ受ケ一瞬ニシテ是等火器ガ破壊サルニ及ビ其日以降敵機
 ノ跳梁ニ任ス外ナキ有様ト化シタリ、
 一月九日夜シオヨリ七根司令官並ニ幕僚第十八軍軍司令部官及其幕
 僚及ハニ警新司令西林少佐イ号第一七九潜水艦便ニ到着セリ、此
 ノ頃マダン地區ノ所在海軍部隊ノ兵力僅少ナリシト海軍部衣糧皆

無ナリシ爲第十八軍ノ好意ニ依リ一切ノ補給ヲ受ケオリタリ(尚海軍部隊ノ
 糧秣被服類等一切オランバ地區ヲテ輸送シヤリタルモノモ當地區ニ輸送シテ
 ラス)シカレドモ該地區ニ於ケル陸軍糧秣等ノ集積僅少ナリシタメ主食一日一合
 程度副食物ハ汁ノミニシテ相當難澁シ現地物資ニ不足分補給セント
 セシモ先着ノ陸軍部隊ニ依リ相當荒ヲレオリシ爲入手ニ不可能ナリキ、
 七根司令部到着ト今時ニ小官ハマカシ地區ニ奥雷艇基地設営ヲナス様
 又シオヨリノ転進部隊收容準備ヲ命ゼラレシモ當時ノ海軍兵力ハ全部
 シオ方面ヨリ転進ナシ来リシ白佐五特ノ兵力ノミニシテ其ノ數僅少(約四
 〇名)トシ其ノ大部分ハ疲勞トマラリヤニテ作業ヲナスコト困難ニシテ僅カニ
 藤永中尉ノ健闘シオリタル有様ナリ、又四名中兵曹長約十一名オリシモ
 田中兵曹長ヲ除キ他八目ニ余ル日常ヲ過シオリタリ、此ノ點先任參謀、岩
 城中佐、西林司令モ憤慨ナシオラレタリ、
 從テ下士官兵モ極メテ元氣ヲ軍紀風紀モ弛緩シ作業ハ小官藤

永中尉及外七八名程度、兵力ニ晝夜兼行ニテ作業ナス、止ムナキニ至
 リ、當時、藤永中尉ハ軀進ノ為相當疲勞シ且ツマラリヤ黄疽等
 ノ病ニモ犯サレツヤリナガラ誠ニ敢闘シタル為過勞ガ原因トナリ一月下旬
 後方ニ送ラレタルハ誠ニ才氣ノ毒ナル次第ナリ、
 一月中旬以後敵魚雷艇ハマダン海面ニ相當活躍スル様テリ陸軍、海
 上輸送陣ニ多大ノ損害ヲ生ズルニ至リ、此ノ魚雷艇基地ハフンガイヤ附近
 ノ模様ナリ一月下旬ニ至リ敵機數増加シ且ツ爆撃目標ハマダン地區ニオカレ
 タル模様從ツテ晝間作業ハ至極困難トナリタルモ其間ニ於テ味方魚雷
 艇基地工事ハ陸軍工兵隊ノ協力ヲ得ルヲ得順調ニ進捗シ月末ニ約
 十五隻程度收容可能ノ基地完成セリ、又一月二十五日夜九艦隊先任參
 謀若槻大佐アレキニス飛行場ニ軍偵便ニテ到着岩城先任參謀ト作
 戰打合セナシ二十六日未明軍偵便ニテ出發セシガ飛立ツヤ瞬時ニシテ海
 中ニ墜落誠ニ無念心千万ナル戰死ヲ遂ケラレタリ、(軍偵ノ事故ハ其後度

度アリ誠ニ不安ナル飛行機ト思考セリ

二月入り一日ニハシキワークヨリ海軍大發一隻並ニ八十二警備隊増勢部隊中ノ一部兵力(約三〇名)到着三日ハ海軍高砂義勇隊第一中隊三五〇名到着セルヲ以テマダン地區ノ海軍警備隊ヲ一括シテマダン海軍警備隊編成サレ西林司令コレヲ指揮サル事ナリ小官ハ警備隊長奉命服務副官ノ職務代行スルコトナリタリ

二月五日ニ至リシオヨリ軋進部隊ノマダン到着期日大体確實トナリタルヲ以テコレが收容準備及再軋進準備ヘテ各補給準備ヲカレドモ糧食被服等一切十八軍ヨリ支給サレオリシカバ仲々ニ抄ラス軍ト交渉度々暗礁ニ乗上ゲタルモ十八軍軍司令官ノ御好意ニ依リ割合ニ円満ニ行キタリ其準備期間中義勇隊員ノ超人的作業ガアリシ事特筆ニ値スソレハ一週間間三度ノ食事ノ時間以外烈シキ爆撃下ニ於テ徹夜作業ヲ行ヒ一言ノ不平モ漏ラス事ヲ作業ヲ續行セシ事ナリ

コレが指揮ニ當リタル小官ハ只々聲驚嘆セリ。二月十日、転進部隊收容準備大体完了セシ故、義勇隊一ヶ小隊ヲ指揮シテ被服糧食若干ヲ携帶シ、ボガチン東方カ六。料地點ヲ前進シ、転進部隊ヲ誘導シ、二月十五日マダンニ歸投セリ。マダン到着ノ転進部隊ハ續木大佐、部隊即八十五警備隊約八〇名、鷓飼大佐、指揮スル八十二警備隊約八十五名及七根司令、部附約二千名ナリ。尚シオ方面ヨリ海軍部隊ト行動ヲ共ニセル510、転進部隊モ此頃大体マダン地區ニ集結シ終リタリ。200ハ海軍部隊又510ヨリ早クシオ出発セル故、途中ガリニテ潜水艦ニ依ル補給ヲ受クル事ナク、糧秣等ニ苦勞ナシナカラモ敵中強行突破ヲ止テタルモ強カナル敵部隊ト遭遇シ、転進路変更ノ止ムナキニ至リ、途中ヨリ山中ニ入り海軍510、転進路ヲ転進シ、未リシ爲相當遲レテ到着セリ。七根司令官ハシオ方面ヨリ転進シ、未リシ續木部隊、鷓飼部隊ヲボギア、及ビホーランゲヤ方面ニ先集結シ、身心ノ恢復ヲ図リ、遂次再び前線ニ使用スル爲、二月十八日陸路ボギヤ地區ニ再

山
 山

転進ヲ命ゼラレタリ、尚マダンニ於テ鶴飼司令ハ西林司令ト交代セシモ西
 林司令マダンニ残リタルヲ該転進部隊ハ續木大佐ニ指揮セシムルコトナ
 リタリ、シオ方面ヨリノ転進部隊、最殿部隊トシテ200ノ中井少將ノ指
 揮スル部隊510ノ部隊ガ敵ト相對峙シ、転進ナリアリシガ十八軍軍司
 令官ノ命ニ依リ、海軍高砂義勇隊一ケ中隊(約300名)ヨリガ転進援
 護作戰ニ於テ陣セリ時ニ三月二日ナリ、二月下旬ヨリ十八軍ハ兵力配備
 ヲ変更シ40ノ大部分ノ兵力ヲマダン地區以西ニ配シ200510ハ遂次後方地
 區ニ移動セシメラレタリ、
 高砂義勇隊及八十二警増勢部隊ト共ニマダンニ駐屯セシ旧佐五特
 部隊ハ上記ノ部隊ニ對シ悪影響ヲ及ボシタル事甚大ナリシヲ以テ根
 司令官ヨリ二月十日後方ニ移駐ヲ命ジハナサ地区ノ警備及戰鬥司
 令所ノ準備、地形偵察等ヲ命ゼラレタリ、二月下旬ニ根司令官工藤
 少將、病思ハシカラザル故ト9F命令ヨリ作戰打合ノ為9F司令官部所

在地ウエワク迄行ク事トナリ、マダン海軍部隊ニ取リテ唯一ツノ海上船舶タル
大発ニテ軍医長同伴ウエワク方面ニ出發セラレタリ、

ヲ頂小官ハ命ニ依リ約八日間ニ互リマダン以西ワリゲン地区マデノ陸軍
警戒備狀況ヲ視察シ且ツ該地区ノ転進路偵察ヲ行ヒタリ陸軍ハマダ
ン地区ヨリ、ハンサ地区ニ旦リ約ニケ聯隊、兵力ヲ警戒備ニ配置シ(41)大隊
砲、山砲、速射砲等モ相當準備シアリタリ、

二月中、敵機、迂躍ハ列ハシクナリ、攻撃目標ヲマダン地区ヨリハンサ地区、
間ニオキタル模様又敵魚雷艇ノ横行モ益々烈ハシクナリシカモ其ノ行動範
圍ヲハンサ海面マデ延ビ又敵艦船、出沒モ目立テテ多クナリタリ、其ガ爲陸
軍大発、被害益々大トナリタリ三月ニ入り十八軍ハ後方ノ強化ニ努メ200
410ノ大部分ノ兵カヲウエワクアイタベ、ポランチャヤ方面ニ移動ヲ命ジタリ

ヲ作戰ハ十八軍ト七根ト充分打合セ、上實施ノ事トナレルモノナリト思考ス
十八軍軍司令官ガ岩城參謀ヲ信賴スル事厚ク自軍參謀ニ諮ルヨリ

岩城參謀ニ相談ナシオリタルコトヨリ判断シテ岩城參謀ノ進言ナリト思考
 ス又シオリヨリ十八軍軍司令官アルル必ズ岩城參謀アリシ事全軍ノ認
 所ナリコトガ爲海軍部隊ハ十八軍ヨリ優越ヲ受ケルコトヲ得タリ
 三月ニ至リ敵飛行機ノ活動ハ極メテ活潑化シ大型機及ノースアメリカン未
 襲モ相當數増加セル事認メラレタリ且ツ魚雷艇ノ跳梁モ極メテ烈ハシ
 ナリ我が海上輸送ニ甚大ナル損害ヲ与ヘ様ニテリタリ
 其ノ間ニ於テ最前線テリテ200ノ中井支隊510ノ一部兵力ノマダ南東地
 區ヨリ移動大体完了セリ其ノ作戰ニ我高砂義勇隊ノ献身的奮
 斗アリタル事陸軍ヨリ報告ヲ受ケタリ
 三月中旬ニ至リマダン地區ノ警備ハ410ノ庄下兵團ニ任シ他部隊及海軍
 部隊ハ敵上陸ハ公算最大ナリト思考セラレル地區ニ移動ヲ命セラレタリ
 コノ命ニ依リ海軍部隊ハ三月十八日小官ノ指揮スル一部兵力(約100名)
 ヲ先発トシ本隊ハ三月二十二日移動ヲ開始セリ

十八軍軍司令官及岩城參謀ハ三月十五日マダン発ニテハンサ地區ニ
 進出スル爲三月十九日以降ハンサ地區ニ軍司令部七根戰鬥司令所ヲ置
 カレ此処ニテ指揮サレタリ敵ハテ移動作戰ヲ感知シテカ
 乾進路ヲ猛烈ニ
 攻撃手ヲ加ヘ来リ又途中大河口ニ魚雷艇出沒シ攻撃ヲ加ヘ来リ
 故部隊移動ハ夜間ニシテ行ハレタリ又昼間及日出日没時ノ烹
 炊時間ニ炊煙ヲ擧ゲカ直ニ敵ノ大編隊機ヲ襲撃ヲ受クルヲ以テ一日分
 食事ハ夜間海岸地區ヨリ相當高レタルジャングル内ニ於テ實施セリ
 ヲ移動中糧食ハ主食一日一合、割合副食物ハ現地物ニ合ワセント
 セシモ大部隊通過セル後故何モナク甚苦勞シタリ又裝具モ不完全ナル
 故携行物ハ殆ド濡レ主食米等ハ青カヒヲ生ジタリシカレドモ指揮セシ兵カ
 ニ敵機敵魚雷艇ニ依リテハ何等ノ損傷ヲ蒙ル事ナク
 四月二日オランダニ到着セリ本隊モ若干ノ損傷アリタルモ大体二日後レテ
 到着セリ今更ニ乾進ハ一日行程約ニテ八軒程度ノモノナリシモ夜間ノ進出バ

苦勞ナシタリ

ヲ移動ハマダン地區ヨリ 200510410、各部隊ト入乱レテ行動ヲ起シタルガ行
軍途中ニ於ケル軍紀風紀、點ニ於テ海軍部隊、陸軍各部隊ヨリ絶
讚ノ辞ヲ予ヘラレタリ、陸軍部隊ノ移動ハ極メテ乱雜ヲ極メ軍紀風紀、
弛緩其極ニ達シ吾人ヲシテ目ヲ覆ハシムル行爲ヲスモ、多数アリタル帝

國軍人トシテ誠ニ遺憾ナルコトナリ

一例ヲ舉グルニ行軍途中病魔ニ襲ハレ路傍ニ倒レ瀕死ノ状態ニテ
者ニ對シコトカ被服一切ヲ剥取り且ツ糧秣飯盒ヲ取上ケ丸裸ニテシ其
ノ行過ヤ又ハ重病患者ニシテ步行不如意者ニ對シテハ炊餐ナシ且
ルト稱シ糧秣飯盒等ヲ持去リ其ガ爲患者ハ餓死スル等又ハ大隊
長級マデ自己炊事ヲナシ又甚シキニ至リテハ師團長ノ食料ヲ徒黨ヲ
組ミ盜ニスル等誠ニ不愉快ナル事ノミニナリ、シカシコレヲ、軋進部隊ノ大半ハ
シオ方面ヨリ軋進シ来レル者ニシテ被服裝具等ニ於テ誠ニ哀レナル有

様ニ有リシ事ハ同情ニ堪ヘタル所ナリシモ其ノ行爲ハ余リナルモノト思考セリ
 尚前記ノ不詳事ノ原因トシテハシオ方面ヨリ転進部隊ハマダンニ到着
 スレバ總テ補給休養アルモノトソレノミヲ希望シテマダンヘマダンヘト転進ヲナシ
 来リテ見レバ當時ノマダン地區ニ海上輸送ノ困難ニ依リ転進部隊ノ希
 望ヲ入レル何物モ準備ナカリシタメナリト思考ス

海上輸送困難トナリタル二月初旬ヨリ十八軍參謀向井少佐ハマダン
 地區ヨリ以西陸軍海岸警備隊ニ敵真雷艇ニ對シ應戰ナス様嚴命
 ヲ發シタルト命令仲々徹底セザル恨ミテリタリ

海上輸送困難トナル以前ヨリ陸路ニ依ル輸送ハ幾分ナシオリタルモ河川
 多クシカモ巾広ク深ク橋梁ヲ要スル河川多キモ敵機ノ爆撃艦艇ニ依
 ル砲撃ニ依リ復旧出来ズ徒歩輸送ニ依リタルハ誠ニ心細キ實績ヲ擧
 ゲオリタリ(一般ニニエキニアニ於テハ陸上交通ハ極メテ不便ナル所ナリ)
 オランダ地區ニ海軍警備隊アリ糧秣等モ相當集積ナシオリタルハ此処

ニ至リ海軍転進部隊ハ始メテ充分ナル食料ヲ取ル事得タリ然シテカラ被服及
趣好品ハ全クナク且ツ転進部隊ニ對スル該地區海軍警備隊ノ態度ニ甚カ不
満ノ點アリタリ

諸十八軍ニ於テハ陸海軍ノ移動ヲ其ノ々續行サセ速カニ後方陣地強化ニ當テ
ントモリ其ノガ爲メ200410ノ主カヲウキワークアウト方面ニ急行セシメントセシモ敵機
及魚雷艇ニ邪魔サレ海上輸送ハ困難化セルヲ以テ軍ハ遂ニ三月中旬以降
ラムセピック両河ノ渡河転進ヲ決意セリ尚此時ハハサ地區警備ハ510ニ

変更サレタリ

此項ハハサ地區ニ集積シヤリタル糧秣其他一切ノ集積物ハ連日敵大型
機中型機ノ大編隊ヨリ成ル大爆撃又ハ艦砲射撃ヲ受ケ其ノ大半ヲ爆碎
サレハハサ飛行場ノ使用ハ全ク使用不可能トナリタリ四月上旬マカン地
區ニ於テハ庄下兵團モ遂次移動開始シ最後ニ我高砂義勇隊残り
マカン地區ニアルアレキニス飛行場破壊作業ニ從事作業完了後遂次

後退スルコトナリオリタリ(飛行場爆碎準備トシテハ味方^爆彈多数アリシ故
其ラ地下ニ埋メルコトモリ)

敵機及臭雷艇ノ情况ハ四月三日カルカル島、バクバク島上陸又ハニゴ諸島
上陸等相繼ガ基地確保ニ依リ愈々其ノ暴威ヲ逞シウシテウヰワーク

ハンサ地區間ノ海上航行モ極メテ危険トナリ輸送大発ハ甚大ナル損害ヲ蒙
ルニ至レリ、シガレドモ軍ハ20410510ノ火器ニシテ後方陣地強化ニ必要ナルモノノ輸

送ヲ敢行ナシオリタルガゴ輸送方法ハ海岸ニ對臭雷艇用火器ヲ準備
ナシ其火器威力範圍内海面航行ナサシメオリタリ其レガ爲相當成功

ハナシオリタリ

小官マダンヨリハンサマテ移動中ニ各地陸軍警備隊配置サレ海岸防
備ニ兵器トシテ大隊砲速射砲機關砲等ヲ配シタルヲ目撃セシモ敵臭雷
艇ノ襲撃ニ應戰シタル事只一度モ目撃ナシタル事ナシ、二月初旬頃マデハ
應戰ナシ相當有効ナリシ模様ナレドモ敵飛行機ノ数増大サレ當地區

ノ攻撃烈シクナルヤ應戰ヲ中止セリ小官各地ニテ其理由ヲ問ヒタルニ海岸
 陣地ノ發見サレルヲ以テ心レル故ナリト答ヘオリタルドモ實際ハ夜間一發應戰
 ガ次ノ朝天型機(コンソリ)大編隊ノ一スアメリカン大編隊ノ猛爆撃ヲ受ケル
 故ニ中止セルモノナルベシ敵ハ魚雷艇ヲ以テ我海岸陣地ヲ探知サセテ次ニコレ
 ヲ爆破スル戦法ヲ取リオリタル模様ナリ

四月三日ヨリ四月十九日、移動開始スル期間ニ於テハンサ地区ニ見聞
 セル所ヲ詳述ス

四月七日 20D 参謀長ヨリ岩城先任参謀及小官ガ会食、招待ヲ受ケシ
 時、丁度シオ方面ヨリノ陸軍転進部隊落伍者救出ノ爲出向キ三月
 下旬ヲ最前線ニオリタル 20D 齊藤情報係中尉歸隊ナシ報告ヲ

ナシオリタルヲ傍聴セルヲ以テ其報告ヲ記載ス

20D 51Dノ転進部隊ノ落伍者未ダ相當アリシモ其中ヨカヨカ山中ニ又ニテモ
 約五〇名位オリ其大部分ガ氣力体力共ニ衰ヘオリタルハ神力ニ依ル外ハ

救出シ困難ナリト云フ彼等ノ一部ハ山中ニ入り土民化シ又將校達ハ自決
 セルモノ如キモ尚五〇名ニ近イ落伍者ハ食料被服一切ノ補給ハ絶ヘ且ツ
 現地物資ヲ殆ンド皆無ニ近イ有様ナレバ人肉相食ム悽愴ナル世界出
 現シオリト報告セリコレニ就キテハ小官モ三月十日頃海軍部隊落伍兵
 收容ニボガデン以東ノ山中ニ入り互ニ相喰ム有様ヲ一度目撃セル事
 實ヨリウナツカル事ナリ

転進中落伍兵ノ續々セル最大ノ原因ハ大体ニ於テ糧秣不足マリア
 發病脚氣惡化ヨルコト、思考サルモノニユリテ勘クトモシオリウホワ
 地區ニ至ル轉進路ニ所在セル土人ノ大部分ガ親日的態度ヲトリ落伍兵
 ニ對シ同情的態度ニ出デシ故其ノ好意ヲ惡用シ部隊ト行動ヲ共ニ
 スレバ自己ノ儘ヲテザル故マサク落伍者シ其中本當ニ病ニ襲ハレ落伍シ
 又ハ彷徨セル中ニ敵ニ先行セラレ脱出不可能ニテリタル事ニ依ルト思考ス
 尚十八軍參謀長ハ先ニマタン以東ニ送リタル重化器ハ海上輸送困難

化ナシタル上陸路搬送ハ尙更不可能ナル故残念ナガラ其大半ハ現地ニテ破壊ナシタリト云ヒタリ

四月八日岩城參謀八十八軍々司令官ト共ニホイキンニ移ラレタリ出發ニ際シ海龍島ニ海軍々需部及九艦隊司令部等モタル事故戰爭準備相當ナシタル事ト思考ス故海軍部隊所持セル兵器彈藥ノ若干ヲ陸軍ニ移讓スル様命ゼラレタルヲ以テ其ノ若干ヲ20Dニ渡シタリ四月ニ入リ敵機ノ未襲ハ物凄ク特ニ大型機(コンソリ)ノ未襲が目立ちテ増加セルハ敵ガアドミラリテ諸島ニ上陸セル事ニ起因スト由ニ考スハシサ地區ニハ四月十日前後マデ高射砲數門健在ニテ相當威カヲ發揮ナシオリタルモ十二日大型機ノ大襲撃ヲ被リ又敵驅逐艦ノ艦砲射撃ヲ蒙リ其全部ヲ完全ニ爆破サレタリ又敵ハ味方ノ移動ヲ感知シテカラムセビツク西河口地域ニ對シ連日猛爆撃ヲ加ヘ来リ夜間ハ魚雷艇飛行艇ニテ攻撃ヲ加ヘテ陸海軍軋進部隊ノ極メテ周到ナル

海軍

注意ニ依リテヲ移動ハ順調ニ進捗セリ

尚ヲ転進路ハ敵ヨリ鹵獲セル航空寫真ニ依レバ人類ノ棲息シ得ル所

ニアラスト記入シテアル地區ニシテヲ轉進路ヲ實地踏破ナシ選定セシハ200

小野參謀長ナリト言フ其功績絶大ナルモト思考ス

今回ノラムセビツク両河渡河移動ハ最初使用舟艇不足又ハ不馴等ニ

ヨリ相當混乱ヲ極メタルモ四月上旬ニ至リ200中井少將コガ促進隊長

トナラレルニ及ビ相當順調ニ進捗セリラム河渡河轉進ハ割合ト順調ニ行

ハレオリタルモラム河以西ヨリセビツク河ヲ渡河ナシコープニ至ル區間ハ大濕

地々帯ヲ通過ナスタメ多大ノ苦心拂ハレタリ

尚ラムセビツク山河渡河順序並ニ渡河路ノ割當ハ200師團長コレガ

選定ニ當リ重要部隊ヨリ先ニ移動セシメルトナリ海軍部隊ハ200410

戦斗兵力ノ次ニ決定ハシ移動開始時期ヲ四月十九日セビツク渡河ハ

四月二十四日ト決定セリ小官海軍第一第二梯團長トニ部下約五百名

柿内大尉(六十九期)ハ第三梯團長トシテ約ハ。名、兵カヲ指揮ナシ四
 月十九日豫定ノ如クハンサ地区ヨリ転進ヲ開始セリ先ズ小官ノ指揮スル
 第一第二梯團ハ四月二十日ラム河渡河完了セリ尚此ノ地区ニ對スル敵飛
 行機敵臭雷艇ノ攻撃ハ猛烈ハ極メ夜間モニ。時以後ハ相當危
 険ニシテ晝間ハ敵飛行機ノ攻撃ニ依リ渡河作業ハ不可能ナル夜間
 渡河ノミトナシオリタリ尚ヲ渡河移動ハ陸軍輕機動浮舟ヲ行ハタリ
 ラム河渡河後約ハ八軒ノ行軍ニシテ大濕地々帯ノ行軍ニ移リタリ泥濘
 膠膝ヲ没スル地帯ヲ約半月小官ノ如キ五尺八寸ノ者スラ胸マテ没スル
 地帯ヲ約一日ノ難行軍ヲナシセピック河ノ渡河莫クワンガンニ達シタリ(別図
 参照)敵ハヲ渡河移動ハ河口外不可能ナリト思考ナシテカセピック河
 口ノノ一附近ヨリマナギス地区ヨリテ連日猛烈ナル攻撃ヲ加ヘ来リ依テ
 十八軍々司令官ハ殊更ニテ地區ヲ渡河コ際敵ニ思ハシメルタメ約ニテ中隊
 ノ兵力ヲシテマナギス附近ヨリセピック河口ノノ一附近マテ連日ワザノ敵目

續垣誌

止マル様行軍サセル外道路補修ス等ノ牽制行動ヲ取ラシタルトス敵
 ハ味方大部隊ガコノ大濕地々帯ノ地區ヲ渡河基地トナシテハ感知出
 来ザリシモノ如シ尚ヲ移動ニ於各部隊ガ極メテ慎重ナル態度ヲ取敵ニ
 發見サル如キ如何ヲ行動ヲモナリ事渡河大成功ノ因アリワカンヨリハ
 甲乙丙ノコースニ分レテ各部隊行軍ヲ開始セリ上記ノコースニ對セル行
 軍部隊割當ハ其時ノ狀況ヨリ現地指揮官ガ決定ナシホリタリ甲コースト
 ハワカンヨリ旧シガリデ夜間大発群ニテ渡河ナシ旧シガリヨリ新シガリマテ約
 一日胸マテ没スルサゴ椰子林ノジャンクルヲ徒涉ナシ新シガリヨリ又大発ヨリビエンマ
 テ渡リビエンヨリハ徒歩ニテマリエンベルグニ出テ其ヨリ又約四日腰マテ没スル大
 濕地々帯ヲ行軍ナシコープニ進出スルコースナリ丙コースハ新シガリマテハ甲コー
 スト今様ニシテ進出シ新シガリヨリハ大發ヲテムリツクニ渡リ其ヨリ陸路
 コープニ出ルコースニシテコープスハ輸送力少テリシ爲病人部隊及緊急移動
 ヲ要スル部隊ニ使用セホリタリ乙コース小官指揮スル約八〇名海軍部隊ヲ参加セル

ガンヨリ對岸ニ輕浮舟ニテ渡リ爾後約三日間小官ヲ胸ヲ没スルマシク
 ロープノ大濕地々帶且シ大ジヤングル地帯ノ行軍ヲナシクルツクニ出テソレヨリ小發
 三ビエンニ渡リソレヨリハ甲コースト全様ノ行軍ニテコープニ出ルコースナリ
 尚ラムセビツク西河流域ハ世界ニ稀ナル蚊及ブヨノ密棲々息地ニシテ行軍
 中休養中トテ問ハズ物凄ク來襲シ來リ渡河部隊ハ孰レモ誠ニ惱ムレ
 タリ乙コースヲ取リタル各部隊ノ苦勞ハ言語ニ絶スル苦勞ヲナシタリ先ヅ
 ワンガンヨリクルツク迄ハ晝尚暗キ大濕地ジヤングルニシテ胸ヲ没スル所木ノ根
 切リヒラキテ進軍シ夜分ハマシグロフノ上ニ假眠ヲ貪リ又夜明ケレバ行軍ナス
 ト云フ大難關路ヲ通過セリ又ラム河渡河後ハ濕地々帶ノ行軍ナレバ
 炊餐不可能ナリシタメ各部隊約八日間位ハ生米ノミヲ食シタリ其ハ生
 米タルマ濕地々帶行軍ヨル裝具ノ水漬リ其レ以前ノ汗ト雨トヨシ濡レ爲
 全ク青黴ノ發生シタル生米ナリソレヲ泥水ニ漬リナラノ食事故各部隊ハ殆
 ト大腸炎ヲ起シ血便ヲ催シタリ且ツ常ニ腰マテハ水漬リ故ニ大小便ハ夜

分木ノ上ニ休マデ其ノマナス故尻モ相當タレ痔ナル者ハ殆ド再發シ又
マラリヤ患者モ再發ナス等ヲ軋進行軍間ニ於テ陸海軍相當犠牲
者發生セリ小官モコープ進出マテ約一〇名ノ落伍者(大体ニ於テ戰死)ヲ出
シタル事誠ニ大痛恨事ナリ

斯クシテ各コースヲ進出シタル移動部隊ハコープヨリ再ビ入り交リテウヰワ
一ク地區ニ進出ヲ續行セリ小官ハ四月ニテ七日夜ビエン附近ニテ敵ハアタ
ベホーランヤヤ方面ニ上陸セシ事ヲ確聞セリ又ヲ渡河促進隊長中井
閣下モ急ヤウヰワ一ク地區ニ進出セル事モ併セ聞キタリ

ヲ敵ノ上陸ニ関シテハ三月下旬小官達ウリゲン地區行軍中約三日間
敵機ヨリビラヲ撒布ナシ米軍ハ四月二十五日必ズウヰワ一ク地區ニ上陸
スト宣言ナシオリタリ

コープヨリウヰワ一ク間ノ軋進路ハ別図ニ示ス如キ難コースナリシモ數
名ノ犠牲者(大体病ニ倒レシモ)ヲ出セルノミニテ通過ナシ五月二日ボーキンニ

注
實

到着セリ、ハンサ地区ヨリウキワーク地区マデノ転進中陸軍部隊ハ又々
 ハンサ地区ニ達スルマデニ行ハタル醜狀ヲ再々行ヒタルコトハ誠ニ遺憾ニ思フ所
 ナリ、コノ移動中敵飛行機ノ襲撃甚シク夜間ハ魚雷艇ノ横行烈シク
 晝夜共前進ニ悩マサレタリ即チ晝間ハ飛来スル大編隊機ノ爲行軍出
 来ズタ刻ヨリ行軍開始セルモ海岸通ヲ通過中屢魚雷艇ノ照射ヲ
 受ケ且発見サルハ猛烈ナル攻撃ヲ浴ビル故行軍指揮官ハ多大ナル心
 勞ヲチシタリ、ウキワーク地区ニ至レバ敵ハイタベホーランヂヤ飛行機場ヲ使
 用シ且ツアレキニス飛行場ヲモ使用ナシオルモノ、如ク飛来スル機数ハ著シク
 増加シ一日延一ニ〇機ヲ数フル日モ尠ナカラス又ソノ偵察攻撃モ猛烈ハ極
 メ行軍ハ益々困難トナリタリ、
 又各部隊ハ乱レテ行軍中転進部隊ノ落伍者及病人等ニシテ目暴目
 棄トナリ晝夜間ヲ問ハズ又他部隊ノ附近行軍露營等ヲ考ヘズ、
 独リ勝手ノ行動ヲ取ル者多カリシタメ、敵機又ハ敵魚雷艇ニ発見サレ其、

一五

附近ニ猛爆撃、銃撃ヲ蒙リ多大ナル被害ヲ受ケル事再ニナリ、敵ハ一兵ト謂ドモ必殺ヲ目標トシ、如シ。

コトヨリボイキン地区ニ至ル間海岸各地ニ陸軍警備隊配置セラリ且速射砲程度ノ對魚雷艇應戰火器ヲ裝備シテタルヲ拘メ、夜間敵魚雷艇ヲ自己火器射程内ニ收メテガモコレニ發砲スルコトナク、ウキワークハンサ間ノ海上強行輸送ニ任ジシテタル船舶團ニ被害ヲ甚大ナラシメオリタリ。

一例ヲ擧ゲテ、四月二十日夜分小官ノ梯團ガテレブ岬附近ニ露営中（海岸地區ニ）テレブ岬海面ヲハンサ方面ヨリウキワーク方面ニ至ル三隻ノ大發アリタルガテレブ岬附近ニ至ルヤ今岬海岸ニ待期ナシオリタルウキワーク敵魚雷艇三隻ヨリ急ニ襲撃ヲ受ケルヲ目撃セリコレニ對シ海岸警備隊ハ魚雷艇ニ對シ一發ノ彈丸ヲ送ルコトナク、只敵ノテスマニナシオリタリ。

間モナク三隻ノ中ニ隻ハ撃沈サレ一隻ノミ海岸ニ漸クニ逃ト来トリ、其ノ夜又々ヨリ一時間ガイシテ同位置ニテウキワークヨリマリエンベルグニ食料

海軍

補給大發が二隻命命撃沈サレ誠ニ無念ナル慘状ヲ目ノ辺見セツケラレタリ
 又二十九日又々大發三隻全様攻撃ヲ受ケ撃沈サレ目撃セリ、コレ等大
 發ノ被害ヲ受ケタル所ハ速射砲程度ノモノハ裝置アリタル地區故ニ實ニ残念
 ナル次第ト思考スシカモ四月二十八日被害大發ハ20ノ師團長參謀長以
 下師團首腦部全体戰死ト發表セラレタルコトヨリ考ヘテ益々彼等警告
 備隊誠ニ情ナキ警告備振リニ對シ憤慨ヲ感ズル次第ナリ夜分ノ應戰
 が翌朝、猛爆撃トナルヲ恐レル故ナル事前述ノ如シ、コレニ對シ海龍島ノ
 吾海軍警告備隊ハ夜分ノ心ズ奥留艇ト應戰必ズコレヲ遁逃セシメテリ
 タルコトヨリ比較シテ尚更腑甲斐無サテ憤ルノミナリ、斯ノ如クテ前線ヨリ後
 方部隊ハカラシナサテ憤慨ナシ、五月三日ボイキン到着ナシタリボイキン地區
 ニ到着後直感セシ事ハ防空施設ノ貧弱ナル事ナリ、又コレが對策ハ何モ
 講セラレタルヲ見ズ故ニ十八軍參謀トシテボイキンニアリタル岩城海軍參謀ニ
 ヲ譯ヲ問ヒタルニ參謀モ當地ニ到着スルヤ直ニ防空施設ヲ完備ナス様

注意ヲ喚起ナシタルモ拘ラス未ダコレカ施設ヲナサズ只時折来襲スル敵機
 アルトキハ山中ニ待避シテオル許リ最近少シ来襲機ハ数ヲ加ヘタルハ朝早クヨリ山
 中ニ待避ナシ無為ニ日ヲ送リ夕刻又兵舎ニ歸ルト云フ實ニ腑甲斐ナキ日
 課ヲ経テオルト申サレタリ思フニ最近マテ当地區ハ敵機ノ来襲甚ク深酷
 ニ敵爆撃ヲ味フ事ナカリシ故ナリト思考スシカシ小官到着セシ頃ハ当地
 上空ヲ通過スル飛行機、延機数ハ三。機ヲ下ル事稀ナリ其レ故小官ハ必
 ズマ攻撃アル事ヲ思ヒ即日小官ノ指揮ナシ来リシ高砂義勇隊ヲシテ徹夜
 作業ニテ防空壕ニケ兵舎附近ニ完成セリコレニ依リ当地警備隊モ少数
 出勤セテ不完全ナル待避壕一ヶ作製セシメタリコレカ翌五日朝急襲ニ非
 常ニ役立チタリ尚ヨボイキン地區ニ旧佐五特、転進部隊約五〇名程度
 残留アシオリマダンニ於ケル如キ行動ヲ當地區ニテモアシオリシタメ当地警備
 隊軍紀風紀、弛緩志氣ノ銷沈、原因ヲナシタルモト思考ス五月四日連
 絡ノタメ海龍島ニ渡リニテ特根司令部ニ出頭セリ(九艦隊ハホーランヂヤ

ニテ音信不通七根司令部ハ三月二十五日附解隊小官モ今日附横鎮
 附ヲ命ゼラレオリタル事始メテ知リタレハ連絡先ハ平七特根ノミトナリオリタル
 (バナリ)海龍島ニ到着後直感セシ事ハ軍紀風紀乱レオリタメト士氣ノ
 誠ニ昇ラザル事アリコ感ハ小官前線ヨリ後方ニ転進シ来リシ毎ニ深名
 リ菓セルカナ当島ノ警備隊ハ敵機未襲ニ備ヘルニ毎日朝早クヨリシヤ
 シタル深ク待遊ナシ一日無爲ニ只寝ル丈ノ日課ヲ過シタ刻兵舎ニ歸ルト云
 フ日常ナリ小官達ニ於ン地區ニ駐屯ナシオリタル折敵未襲ハ三程度
 以上ノモノナリシ警備隊ハ寧日戰鬥訓練又ハ各種作業ヲ敢行軍紀風
 紀總テノ莫ニ於テ陸軍部隊ノ龜鑑ト称サレル程ノ日常ヲ送り来リシ故
 (コ事實ハ後述ナスモツニ岩城參謀西林司令柿内明夫大尉(60期)一
 頁ノ所甚大ナリ)ニ當地ニ對空火器皆無ナリト云ヒ當地警備隊ノ日課ハ
 全ク無意味ニ感シタリ
 只當島ノ防空壕ハ極メテ完備セルモヲ使用ナシオリタリコ防空壕ハ一月初

旬ヨリ能登先任参謀が極メテ積極的ニコレが準備ヲ企画シ施設ヲ急カ
 セタル事ガ物ヲ言ヒ四月ニ入ッテ海龍島ニ對スル敵機及驅逐艦、魚雷艇
 等猛攻撃ヲ連日受ケ家屋、物資、損害ハ相當アリシモ兵ニ極メテ僅少ナ
 ル犠牲ニテ済ミタリ、又当島ニアリタル水警隊ニ至ル實ニ腑甲斐ナキ准士官
 ノミオリ、魚雷艇附近ニ出沒スルニ至ルヤ下士官ヲミ大發運航ヲナサシメ目
 己達ハ何トカ口實ヲ以テ艇指揮ヲ採ル者皆無山中又ハ防空壕待避ハ
 眞先ニテス様誠ニ目ニ余ルモノアリタリ、
 斯ク如キ水警隊故ニ大切ナル大發等ヲ敵飛行機等ニ依ル爆撃ヲ被害
 ヲ受ケナガラ手ヲ拱、又キテ任セタリト思考セリ、
 二十七特根司令官ハ海軍部隊ハ當島ヲ死守シ敵上陸ヲ企テタル時コレヲ水
 際ニ邀撃セントスル決意ヲ示サレオリタリ、
 尚小官五月三日ボイキン到着後五月二十八日潜水艦呂ノ二十五号ニ便乗ス
 不當地區ニ於テ見聞セル事左ニ列記ス、

一、五月二十五日頃、十八軍、總兵力約六五〇〇名程度ナルモ半分ハマラリヤ
脚氣其他病氣ニ因ル患者其他ニシテ實兵力ハ大体二五〇〇程度
ナリ

一、ハンサウキワックボイキン間、警備ハ510ヲ以テ當テコレ各師團、若干兵力ヲ
加ヘ敵、上陸ニ備ヘ410²⁰⁰ノ主力ハアイタベ作戰ニ使用ナスコトニ決セリ。
尚ハンサ地區ハ510ノ一部兵力(約一ヶ大隊)ヲ殘留セシメ敵ノ前進ヲ
コ地テ阻ミ十八軍アイタベ總攻撃ヲ守備スルコトテリ、ホリタリ又海龍
島ノ海軍部隊ハ同島ヲアイタベ總攻撃ヲ死守スル様命セラレタリ元海
龍島ハ敵潜水艦基地ナリシタメ今島ヲ敵ニ利用サレ時ハ爾後ノ作
戰ニ多大ナ脅威ヲ背後ニ感ズルタナリ。五月二十七日頃、海龍島ニ於
ケル兵力ハ全部海軍部隊ニシテ總數四五〇名(司令官佐藤四郎
少將先任參謀能登大佐、機関參謀大隈大尉、軍醫長丸山軍醫
中佐)ニシテ敵ニ備フル兵器ハ十二種砲台一山砲六、機銃十數門

程度ニシテ山砲及^{13mm}機銃ニ對スル彈藥ハ山砲ニ六。発機銃ニ二。
 〇〇発ノミ(シナルガ故ニ連日、敵機敵魚雷艇ノ人ヲテタル傍若無人
 ナル振舞)對シテモ只々切齒扼腕ナスニナリ、且ツ兵力四五。名中約二
 割ノ銃ヲ持タル故竹槍組小銃ヲ持スルモノモ彈藥ハ一人宛四。発
 程度ナリ。

一、ホイキン地區ニ十八軍司令部海軍警備隊其他陸軍部隊
 所在セリ、ホイキン海軍警備隊主力ハ旧八十五警備隊兵力約一〇名
 ヲ主体トシコレニ義勇隊ニテ中隊ヲ加ヘコレガ指揮ニ柿内大尉任セ乾
 リタリ、但高砂義勇隊ニテ中隊大半ハ六月四日ヨリ十八軍ノアイズ
 總攻撃作戰ニ直接参加ノタテ行動ヲ起スコトニナリタリ。

一、岩城參謀ハ依然十八軍司令部ニ於テ執務サレオリタリ、小官ハホイ
 キン到着後潜水艦便乗ニテ海軍連絡將校ヲ命セラレ岩城參謀
 ノ下ニ十八軍司令部ニテリタリ、其ノ間ニ十八軍參謀達ニ種々戦況

等ヲ承リタリ。

一、五月下旬頃ニハマダシ方面ヨリ来リシ敵ハウリゲン地區迄進出又セビツ
ク河上流ヨリ大発テ溯航中ノ敵ハ河口ヨリ三日航程ノ地矣マテ進出
セリ又シキワークヨリ三〇哩山中ニ約一ヶ大隊落下傘ヲ配備シキタリ

(十八軍参謀談)

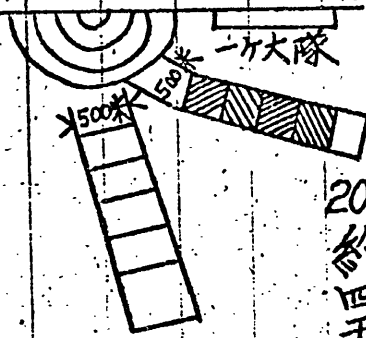
一、十八軍ハ六月十五日ヲ以テアイタム總攻撃ヲ開始シ、コレニ使用スル兵
カハ200410ノ大部分ナリ其ノ大略ヲ述ハレバ總攻撃開始ニ當リアイタム
附近ノ海岸ニ對シ約一ヶ大隊ノ兵力ヲ配シ敵魚雷艇其他ノ
障害ヲナス部隊ニ配シ200ノ主力ハ海岸ニ近キ方面ヨリ410ノ嶺ヨリ中
五〇米ノ長方形梯團ヲ作り敵陣地攻撃ヲ行ヒ梯團ノ最
初ノ一隊ハ最外部陣地ヲ奪取シ次ノ隊ハ第二陣地奪回斯ク
シテ全兵力ノ大半ヲ失フモアイタム奪取敵ヲ殲滅セントノ作命令
五月十五日附テ十八軍々司令官ヨリ発令セタリ。

ヲ作戰ヲ凶案スレバ

200 約四千五〇名總兵力

410 約八千名總兵力

側 海



一、アイタベ作戰ニ使用スル200兵力ノ半分ハ竹槍又200410共小銃彈

ハ各自四〇發程度手榴彈一發宛ナリ(岩城參謀談)

一、ホイキン海軍警備隊ノ武装モ極メテ貧弱ニシテ旧八十五警旧佐

五特、シオ方面ヨリ乾進ナシ来リシ兵ハニシテ現在コ地ニ残留ナシラルモノハ

銃器所持シオラス故ニコシ等、兵ハ總テ竹槍ヲ使用セシメタリ。

義勇中隊ハ武装殆ト完備セル状況ニアリタトモ彈藥ハ各自六。發
程度手榴彈ハ一ヶ宛

一、ホーランヂヤ方面アイタム附近ニ敵上陸セル四月二十三日頃味方兵カト
シテハホーランヂヤ方面ニ第四航空軍麾下ノ部隊約八〇〇名程度
アイタムニ約二〇〇〇名程度アリシモ敵上陸ニ際シテハ一戰ヲモテ交ヘルコトナ
ク山中ニ退キタルモノ如シ(十八軍向井參謀談)

尚九艦隊司令部ハ當時當地セントラ湖附近ニアリタルモノ如キモ
二十四日十六時頃敵ハ艦隊司令部ニ〇米附近ヲ進撃セシ来リシ
タ最早春信不可能ト無線入リシ後五月二十八日ヲ音信不通
行方不明ナリ其レ故海軍部隊ハ玉碎セルモト思考ス(能登參謀
談)

一、ホーランヂヤ地區ニ陸軍ハ約一年半分糧秣彈藥医料器材ヲ六
月十七日揚陸完了セシ故敵上陸ヨリソノ大部分ハ敵手中ニ落テタ

ルモノ如シ十八軍向井參謀談)

一海軍第八建設部ニテ使用ナシタル軍属約三〇〇名ハ四月十三日
アイトベヨリ陸路ホーランヂヤニ向ケ約十日間、糧食ノ持參ヤ々々
セシメタル故ソノ動靜不安ナリ(能登參謀談)

一五月下旬十八軍全麾下ノ保有スル糧秣ハ米一日八勺トシテ大体七

月一杯海軍部隊ノミナラバ一日八勺程度ナラバ今年一杯ハアリタドモ

海軍部隊ハ十八軍指揮下ニアルタメコレガ分與ヲ命ゼラレ海軍部隊

モ陸軍全様一日八勺程度トシテ大体七月一杯トナリタリ又調味品ハ

海軍ニ不足ヲ来シ五月一杯ニテ品切レトナル処呂子入港ニ依リ粉醬

油半屯塩四。俵揚陸セル故幾分延バ事ト思考ス

一十八軍全麾下ノ保有スル医薬ガ不足ヲ来シ現在ウキワク地

區ニ約四〇〇名程度ノ重病患者、ボイキンニ一五〇名程度ノ重

病患者アリシモ医薬及糧秣ノ不足ヨリ小官ノボイキン地區ヲ

揚、時折ハ大体一日合計三五名ハ戦死ナシオリタリ。殊ニ陸軍ノ病人ヲ
 スル供、食ハ一日二面ソレモ粥トハ申セ誠ニ米粒ガ浮イテアル位ノモノニ汁ソ
 レモ粉醬油粉味噌孰クニテ味ハツケアルモ中味ハ何モナキ一汁医薬ハ誠
 ニ不足ナシ満足ニ行涉ラザル有様ナレバ如何トモナシ難キ有様ナリタリ。

一、マリアヤ罹病者ハ米國側ハ大体二〇%程度ナリコノ原因ハ彼等ハ宿
 營地ハ完備シ且ツ空ヨリノ心配無キ爲充分ニ施設ガ充テスコト
 出來ル故衛生状態ハ誠ニ羨ムベキモノアルニ反シ我方ハ常ニジャング
 ル内ノ生活故罹病患者ハ五五%程度ナリ次ニ當地ニ於テハアテ
 フリンアトキネエネ不必要ナル事ガ原因シテ米國側ハコレヲ多量ニ持
 参ナシオルタメトモ思考サル。

一、當地區ハ海軍第八建設部ノ努力ニ依リ相當開拓サレ農産物ニモ
 見ルベキモノアリタルモ十八軍大軍ガ集結セルタメ殆ム見ルベキモノアキニ至リ
 一、糧秣補充爲現地物資ニ依リコレガ補給ヲ計リサゴ椰子等ヨリ澱

粉ヲ採集スル等又ハ農作物ヲ増産セントナシテ敵ハ最近我方ヲ食糧攻ミモト農園ハ爆撃ニ依リ椰子林等ハガリンニテ燒キ拂フ等ノ手段ニ出テ来リシタメ仲々補給ハ困難化セリ

一土民ハ第八建設部ノ宣撫ニ依リ日本軍ニ相當協力ナシテモ陸軍ノ大部隊中ノ不心得分子ヲ爲段々離反ナシ行ク傾向アリ

一最近ヲ地區ニ對スル敵機ノ来襲ハ極メテ活発トナリ一日延機數一〇〇機ヲ數ウルト珍シカラズシカモ其大半ハノースアメリカンマーチン機ノ類ナリ

尚味方機攻撃及地上反攻皆無テハ敵輸送機ノ大部が連日海龍島上空ヲ通過ナシヤリタリ大体一日四機ニ近イ輸送機往復ナシヨリタリ五月中旬ヨリハ英國練習機モ参加シテ飛来攻撃ヲ加ヘ来トリ

コ英國機ハパイロット養成機ナリトモ謂ハレオリタリ

一敵臭雷艇横行ハ其極ニ達シ日中敵戰鬥機爆撃機ニ護ラレテウキワーク灣又ハ海龍島棧橋五〇米附近ヲ近寄リ攻撃ヲナシヨリ

〓タリシモ對應火器ノ充分ナラザル守備隊ハ如何トモテ難ク只々彼
 等ノナスカ儘ニテシオクノミナリ夜分ハ海龍島ノ海軍警備隊ハ魚雷艇
 未襲場合敢然應戰ナシオリ敵ハ吾海龍島山砲陣地砲台ヲ
 発見壞滅サセシモト連日大編隊ヲ以テ搜索ナシオリタリ
 一ボイキント海龍島ノ海軍部隊連絡網僅カ一隻大發ト故障大発ヲ
 漸ク修理ナシタルモ一隻旧式ノ内火艇一隻以上三隻ニテ行ヒオリタリ最
 近ノ如ク敵魚雷艇及夜間ノ敵機偵索等猛烈ニテリタレバ連絡杜
 絶サル危険ノ公算大ナリ尚海軍糧秣ハ大部分海龍島ニ貯藏
 シタル事ヨリ考フルモ誠ニ不安ナル有様ナリシガレドモ海龍島附近ニ
 アルシ嶋ニ陸軍船舶工兵聯隊所在ヤ目下約十五隻程度ヲ保
 有ナシオル故萬が一場合ハコレニ頼ラザルヲ止カルノ状態ニテト思考ス
 海軍部隊ノ大發不足ノ原因ハ前述ノ如ク秘匿場所ヲ全然考
 慮セザリシ事最大ナリト思考ス

一、五月二十三日午前敵大型機及ノースアメリカン大編隊ボイキン地区ノ十
 八軍司令部及其附近ニ所在セル海軍警備隊ボイキン指揮所及
 兵站等ニ對シ猛爆撃ヲ加ヘタリ其時十八軍司令部ニ於テ六十
 八軍麾下參謀會議ノ最中ナリシ故直ニ附近ノ防空壕ニ避難セル
 所參謀達ノ避難セル防空壕ニ直撃彈ヲ蒙リ十八軍參謀向井
 上田両少佐航空參謀五十一師參謀長作戰參謀四十一師參
 謀長即死サレ岩城參謀ハ三週間歩行不可能ナル重火傷ヲ負
 ハレタリ、サ、地區ニ對スル敵機ノ攻撃ハ三時ヲ極メテ閑散ニシテ折
 銃撃爆撃アリタルニシテ地區ナリ(大体最近ノ敵爆撃ハ編隊長
 機が攻撃セル所ニ一度ニ攻撃ヲ加ヘル方法故一度目標トナルヤ相當
 危険ヲ感ジタリ) 偕ニ猛爆撃ハ其後數日終日続行サレタリ
 コガ原因ト考ヘラルハ五月十八日頃十八軍直轄ノ工兵隊約一〇〇名ヲ
 イカヘ附近ニ捕虜ニシタルタメコガ救急ニケ大隊急行ナシ捕虜

ニテリタル兵ノ中ニ名大ハ救出シタルモ其ノ混乱ニ乗ジ約五〇名ハ山中ニ
 逃セセルモ三〇名程度ノ兵ハ目前敵兵ニ連行サルヲ見カテ救出
 不可能ナリシ事アリタリ尚ヨエ兵ハ派遣前十八軍々司令部附
 近ニ宿營ナシオリタル部隊ナリヨレ等捕虜ノ白狀ニ依リ今度ノ
 猛爆撃トナリタリト思考サレオリタリ斯クテ十八軍麾下ノ參謀陣
 ハ先ノ三師ノ參謀陣ノ壞滅ト併セ殆ド全滅ニテリタリ小官ノ
 五月二十一日ボイキン発マデハ未ダ參謀ハ発令サレオラザリシ如シ
 尚ボイキン兵站病院ニ於テハ印度捕虜約七〇名程使役サセ
 オリタルガ敵後方ニ上陸スルヤコレガ処分ヲ敢行シ五月十五日以降
 一日約二〇名ニ日続行シテ処分セシガニ日目ノ処分ヲ受ケタル者ノ
 一名息吹キ返シ仲間ニ報告セル故其ノ夜残余ノ印度兵三〇
 名逃セセリ軍ハ直チニコレカ搜索ニ派遣セルモ五月二十七日マデハ二名
 モ捕ヘラト不可能ナリト謂ヒオリタリ

印度兵附近山中ニ潜伏中ノ敵スハイニ報告セルタカ兵站病院其他軍事施設ニ對シ確實ナル攻撃ヲ加ヘ来ルモト思考

サレルナリ

一、敵ハ五月初旬ニアレキス飛行場アイタニ飛行場ホーランヂヤ飛行場ヲ使用始メホーランヂヤ飛行場ハ中型ノ離着陸アイタニハ戦斗機用アレキスハ全部ノ種類ノ飛行機ニ使用サレタルモノ

ノ如シ

一、マタン地區ノ魚雷艇基地ハ四月下旬ニ敵ニ利用サレオリタルモノノ如シ

小官東部三ノヤテ方面作戰中特筆ス必要アリト思考セシ
事ヲ左ニ記ス

一 柿内明夫大尉(六十九期生)ハライ方面ノ作戰ニ参加以來シオ方面
ニ転進シオ方面ヨリマダンニ又々第十八軍ノ転進部隊ノ最後地矣
ホイキンマテ全行程ヲ徒步行軍セラレテ全行程ノ總ヲ研究サ
レオル方ニシテ大尉ノ功績ハ小官マダン以後五月二十八日ホイキン離
ルテ行動ヲ共セル間目ノ辺リ確々得タル所文ニモ誠ニ甚大ナルモ
ノアリト思考ス

大尉ハ八十二警団司令親飼大佐副官トシテ親飼司令ト共ニライ
ヨリシオヘシオヨリマダンニ転進ナシ来リシ頃^舊身体モ精神的モ疲
勞ナサレオリカマダン地區海軍部隊ノ現状^シルヤ敢然マダン残留ヲ
決意サレ新司令西林克己中佐ノ下ニ當時幾分軍紀風紀ノ弛
緩シテタル警備隊ヲ教育指導ナシ且ツ小官等モ指揮官ト

シテ心構へ等ヲ懇心切ニ指導シテ下サル等誠ニ献身的努力ヲ盡
 サレ其結果所在各部隊ヨリ絶讃ノ辞ヲ送ラレタリ次テボキヤ地
 區ニ転ズルヤ當警備隊ガ余リモ志氣銷沈戰意ニ缺クル処ア
 リ連日敵飛行機未襲ニ對シテ終日山深く入り無爲ニ過シテ
 ル事ヲ知ルヤ岩城先任參謀ト相計嶺山中ニジヤンゲル戰鬥訓練ヲ
 實施セシメ且ツ軍紀風紀肅正ヲ断行ナス等率先身ヲ以テ範
 ヲ示サレ間モテ又陸軍部隊ヨリ海軍部隊ハ陸軍ノ模範トシテ絶
 讃ヲ浴ビタリ次テラムセビツク両河移動モ卓越セル指揮振リヲ
 發揮ナシボイキン及海龍島ニ達シタリ當地ノ海軍警備隊ハ四月
 十二日以前敵機未襲未だ列ハシカラス戰局逼迫セサル頃マテノ精神
 的モ其他總テ莫ニ於テ戰鬥準備ニ缺ケアリシタメ四月十二日以後ノ
 當地區敵機未襲増加又四月二十三日夜敵軍ニ後方基地ホーラン
 デヤアイタムヘ上陸サルヤ只周章狼狽軋進ノヲ專念考ヘオリ連

日敵機、未襲ニ對シテ對空火器皆無ナリト謂ヒ一日山中ニ避難シテ
 無爲ニ打過シ居ル有様ナリカ大尉ハコレヲ見ルヤ直ニテ日課ノ刷新
 ニ當リ且ツ戰鬥力増強ヲ計リ軍紀風紀ノ肅正ヲ断行シ實績ヲ
 擧ゲテ短日月ニシテ一変セル海軍警備隊ヲ編成ナシタリ又海龍島
 ノ水警隊ノ准士官ノ再教育精神訓練ニ見ルベキモノ多シ
 シカレドモ大尉ノ健康ハ漸ク衰弱ヲ増シ側ヨリモ充分ニ其ノ事實カ
 判ル程度ニテリ小官歸還ノ折ハ寢汗發汗相當量アリ身体異
 状ヲ自カラモ口ニサレオリタリ大尉ノ如キハニヤテ戰線今後再々前進
 作戰ニ移ル時ハ海軍トシテ至宝的存在ナリト思考ス
 九艦隊司令部附戸嶋軍医大尉ハマダニ到着セシハ月初旬
 ナリ大尉ハ着任後職責ヲ果ス事ニ自己ヲ滅却シテ敢斗シシ
 アリシカ自己モ遂ニマラリヤ等ニ襲ハレ発熱四〇度ヲ上下スルヲ數
 日其ノ前後相當高熱ナリシモ自己ノ職責ハ自己ノ病ニ依リ休

ムギモノテラスト断シテ重態下ニ最後マテ頑張り抜キタリ

大尉ハテ間病況悪化シ瀕死ノ状態ニ入りタルコトアリタルモ尚頑
張り医ヲ爲倒レル又本懐ナリト称シオリタリカシ神助ニ依リ快癒
ナシタレドモ思フニ至誠天ニ通ジタルモト思考スコノ事實ハ第七根
據地隊岩城先任参謀マダン警備隊西林司令モ共ニ絶讃
ナサレオリタリ

大尉其後高砂第二中隊軍医長トシテ転出スルニ至ルヤ警備
隊一同宛カモ親ニ離別スルカ如キ愛惜ノ場面ヲ呈シタルハ實ニカル
ハント思考セリ大尉ノ如キ軍医ガ吾帝國海軍ニ在ル中ハ部

下兵隊ハ安心ニテ彈雨中ニ働キ得ル事ト心強ク感ジタリ

東部ニテヤテ転進作戰ニ参加シ経験ニ基キ海軍陸戦隊編
成スルニ當リ考慮ヲ要スルト思考ナス矣列記ス

一、背囊ヲ準備ナス事

本転進ニ於テ携帶品携行ニ苦心ナシ有合セ布衣等ヲ用ヒテ
 代用物ヲ作り行軍マシタド長期行軍中破損スルヲ續出ナシタ
 大ノ不便ヲ感ジタリ尚大キサ現在陸軍部隊使用中代用背囊
 ノ2/2倍位適當ト認ム

一、背囊内ニ同型同大ノ薄ゴム袋ヲ裝備スルコト

河川渡渉又ハ大降雨中及大濕地ヲ帶リ行軍及発汗等ニ依
 リ携行品一式濡キテ失ヒ一切使用不可能トナリタル事實ヨリ鑑ミ

是非必要ナリ

一、海軍制式ノ雨衣ハ色ヲ変ヘルヲ必要ナリ

敵機ニ発見サレル場合多シ

一、編上靴ノ取扱一段ト考慮ヲ要ス

海軍ヨリ支給シ靴ハ一ヶ月位ニテ使用不可能ニテルコト多シ保靴油
 ノ使用ヲ一段注意ニテ使用セシメルコト尚靴底ニ



(續前)

海軍

具是非必要ナリ。

一、士官用編上靴モ陸戦隊附トナルキ士官用ハ誠ニ不向ナリ半ヶ月

位ニ使用不可能ナル場合多シ且ツ山地等ニテハ特ニ不向ナリ。

一、ゴム足袋ハ  ノ型ヨリ  ノ型ノ方が歩行ニ都合ヨシ

足指ノ痛ミナシ。

一、飯盒使用ヲ充分研究ナサシムルコト又警備隊編成ノ場合ハ必ズ

各人ニ持参セシメルコト。

一、軍力ハシヤングル内ニ於テハ一尺^{四寸}ニ寸程度ノモが最適ト思考ス。

一、兵用銃剣ハ全刀又ヲツケルコト必要ナリ。

一、氷筒ハ陸軍式ニ改メルコト必要ナリ。但シ口金、現在モカ良好ナリ。

一、携^不帯^糧缶詰^食 (食分モ) ヲ準備ナスコト。

一、携^不帯^糧食塩ヲ準備ナスコト。

海岸通行軍ノ折ハ塩分充分ニ使用出来ルモ山中行軍ノ場合

塩分事缺ク時ソガ長イ時間ニ亘ル時ハ殆ソド行軍中倒レルトアリタリ、

(イ) 特種携帶糧ヲ準備ナスコト、

(ロ) 携帶燃料ヲ準備ナスコト、

ハ、ニ、項ニ就キテハ今次ラムセビツク流域ノ行軍ニ於テ痛切ニ感ジラレタリ、陸軍ニ於テハ是等總テ準備アリタリ、

(ホ) 携帶濾水器準備ナスコト、

泥水等ヲ飲料水トナス場合等是非必要ナリ、

一、醫料器材ニ就キテモ陸軍ノモテ研究ナス必要アリト思考ス、

例ヘハ海軍携帶用救急箱等ハ行軍ニ不向ナリ、今般小官ノ参加ノ作戦中陸軍ヨリ補給受ケ助リタルモノ多シ三角布等ハ野戰ニテハ白色モハ敵ノ目標ニテテ不向ナリ國防色トナスコト緊急的ニ必要ナリ

一、敵魚雷艇横行海面及敵制空權下ニ於ケル小型舟艇取扱ニ
関スル所見

敵魚雷艇横行烈シキ海面ニ於テ航行ヲ敢行スル場合ハ舟艇航
行海面區域、海岸ニ對魚雷艇戰ニ充分ナル火器ヲ裝備ナシソ
火器ノ威力發揮範圍内海面ヲ航行ナスト絶對ニ必要ナリ。

海軍大發取扱者ハ稍モスレバ大艦航行法ソク取入テ航行ナス習
慣アリ故ニエドテ東部海面區域ニテ多大ノ失敗ヲ喫シテ陸軍
大發取扱者ハ最初ヨリ接岸航法ヲ取リシタズ彼ノ敵魚雷艇横
行烈シキ海面ウチワークハシマダン間ノ海上強行輸送ニ幾分成功
ナシタルモト思考ス。

尚舟艇ニ最小限度ニ十耗程度ノ機銃ハ裝備ナスコト必要ト思考
ス十三耗機銃彈ニハ敵魚雷艇ハ直ニ應戰接近テシオリキ。

暗夜等ニ於テモ大發等ニテ先ニ敵魚雷艇ヲ発見スル暫ク機關

停止サセル法ハ敵ニ發見サレ算少ナリ。ヲ事ハ飛行機ノ未發表ニ有
効ナリ又爆音判定ニ有利ナリ。敵制空權内ニ於テハ特ニ舟艇秘匿
場所ヲ探シ且ツ周到ナル注意肝要ナリ。避匿不完全ナルトハ必ズ攻撃
撃沈セラレオリタリ。

高砂義勇隊ニ関スル所見

第七團高砂義勇隊約七〇名ヲ海軍ニテ採用コレヲ二中队ニ分テ
第一中队ハ吳鎮守府所轄トナシ第二中队ハ舞鶴鎮守府所轄
トナシ夫々所轄下ノ士官分隊下士官兵ヲ以テ中隊長以下嚮導
兵ニテ編成セリ。

吳所轄ノ中队ニ就キテ申スラハ高砂隊員ノ素質ハ舞鶴所轄ノ
中队員ヨリ優秀ナリシモコガ指揮指導ニ当リタル者一般ニ召集
士官、下士官、補充兵等ガ多カリシタム。隊員ヲ完全ニ掌握出
来ズ中ニハ却ツテ分隊下士官及嚮導員等ニシテ隊員ニ引ッ

(横山抄)

ラレオモテリタリ、ゴノ事ハ高砂隊員精神指導上甚カ憂慮ス
ベキ事ナリト思考セリ。

舞鶴編成ノ義勇隊ハ中隊長ハ特務士官ナリモ小隊長以下ハ
指導者ハ大体ニ於テ現役下士官者中ヨリ選抜ナシ隊員指導
ニ当テオリタル隊員ノ素質ハ第一中隊ヨリ劣リオリタル事ヲ却ッ
テ隊員ノ有スル全カヲ發揮ナシオリタル如ク思考ス。

今後高砂義勇隊ヲ指揮スルハ中隊長等ニ兵學校出身
ノ青年士官ヲ配シ小隊長級以下モ優秀ナル現役下士官兵
又選抜當ラシメル事肝要ナルト思考ス。

小官ノ体験セル中隊長ハ絶對ニ氣力体力精神力隊員ヨリ優
レオル事必要ナリ又最近任官ノ准士官ハ全ク物ノ役ニ立タズ却ッテ
隊員ノ指導上手足纏トナリシ事多カリシ事ヨリ見テムシ現役
優秀下士官ヲ採用指導者タラシメル方が上策ト思考セリ。

御同導ハ直接隊員ト行動ヲ共スル者ナル故特ニ体力氣力等
 數優^レタル現役志願兵ヨリ選抜セシメルコト肝要ナリ

小官義勇隊ノ部兵力ヲ常ニ自己ノ部下トシテ指揮ナシ来リ
 故ニ隊員ノ大体ノ事情ハ知ルコト得タル故其ノ一端ヲ記ス

隊員ノ行動ハ極メテ消極的ナルモ一度上級指揮官ヨリ命アル誠

ニ神ニ近キ行動ヲナス者ナリ常ニ天皇陛下ノ御爲ト一途ナル精神

ニテ働キ上官ノ命令即チ陛下ノ御命令ナリト確信スト申シオリタリ

サレ命下ス時ハ充分ニ考慮ナシ絶對ニ取消ス事ハ不可ナル事ナ

リ若シ命令取消ヲ行フトキハ指揮官ヲ信賴セテナリ誠ニ統制取

レサル隊トナルシカシ命令トアラバ水火ヲ問ハス任務遂行ノニ專心シ

死ヲ恐ム只任務遂行ノ完遂ヲ心ガケオル者ノミナリ故ニ小官モ隊

員直接指道サニ当リテ事ハ充分ニ注意ナシオリタリ又隊員ニ

嘘ヲ絶對ニ言ハサルコト肝要ナリ以上ノ注意ト莫ク心ニテ隊員指導

ニ當ル時必ズヤ世界無比ノ精兵トナル者ト確信スル次第ナリ。
 隊員ハ外部失患ニ對シテハ非常ニ強キモ内部失患ニ對シテハ誠
 ニ弱ク特ニマラリヤ及下痢等ヲ起スマ直ニ元氣ナクナリ、行動ニ
 支障ヲ来ス様ニテリオリタリ、コレガ原因ヲ探リタルニ隊員等故郷
 ニテリシ折現在、醫術ノ思惠ニ浴スルコトナク生活ナシ来リシ事ナリト
 判明セリ故ニ二度ヲ思惠ニ浴シタル者ハコノ惡癖ハ癒リツテオリ
 隊員ニツテ不満ハ今年ヨリ後輩ガ榮アル帝國軍人タル事得ルニ
 自分達ガ年老ヘテ其ノ思惠ニ浴スル事出来ザリシ事ナリ。

以上